



衣笠中央キリスト教会

春のチャペルコンサート

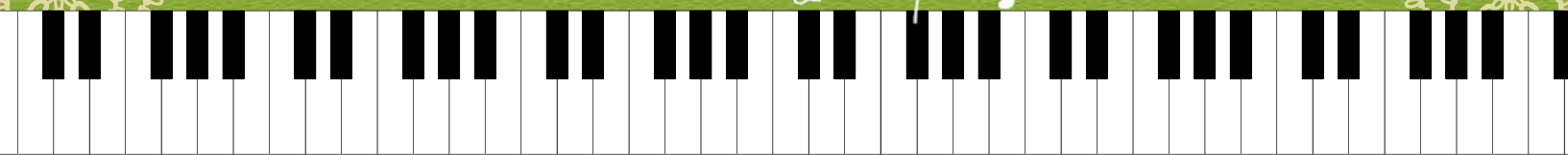
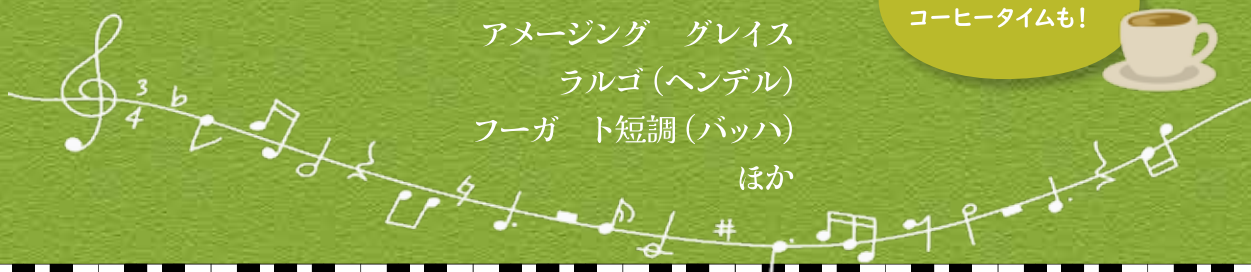
～ パイプオルガンと歌によるコンサート～

2025年 3月 29日(土) 午後 1時 30分～ 3時

入場無料

アメージング グレイス
ラルゴ (ヘンデル)
フーガ ト短調 (バッハ)
ほか

コンサートのあとは
コーヒータイムも!



Introduction ~ ごあいさつ ~

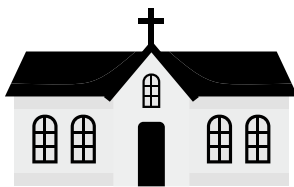
私たちの教会には建造30年以上にもなりますパイプオルガンがあります。大聖堂やコンサートホールのものに比べればかわいらしいものではありませんが、私たちはその素晴らしい音色に導かれ、毎週の礼拝で神さまを賛美し、礼拝をささげています。

パイプオルガンという楽器の歴史は古く、歴史を振り返りますと紀元前3世紀のギリシャにまで遡ります。はじめは水圧で風を送る水オルガンというものでありましたが、その後ヨーロッパのキリスト教の歴史と共に発展してきた楽器です。よくパイプオルガンは「人の声が一番近い楽器」とも言われますが、そう言われるように人の声、讃美歌を歌う際に最も適している楽器であり、多くの会衆の声に負けない荘厳な音色は、讃美歌をリードしていく上で相応しいものなのでしょう。また同時にパイプオルガン自体が神の栄光をあらわす器としてキリスト教の歴史の中で用いられてきました。

また聖書の中には楽器を用いての賛美へと招く言葉がたくさん出てきます。その先駆者とされるのは、イスラエル二代目の王ダビデです。彼は若い内より巧みに竖琴を奏でる人でありました。聖書の中に「神の霊がサウルに臨むたびに、ダビデは竖琴を手にとって弾いた。するとサウルは元気を回復して、良くなり、わざわいの霊は彼を離れ去った。」(サムエル記第一16章23節)と書かれています。イスラエル初代の王であったサウル王が不安や恐れに囲まれる時、ダビデの演奏がその心を癒し、彼は元気を回復していたのです。

現代、私たちの日々の生活の中にあっても、悩みや不安が付いて回ります。またスピード社会の中、なかなか心を落ち着けることの出来ない日々が続いているのではないのでしょうか。限られた時間の中ではありますが、きっと演奏者が奏でるパイプオルガンの音色はそのような日々からサウル王同様に皆様を解放し、神さまの豊かな平安に包まれることでしょう。ぜひ、この機会、教会へとお越し下さい。お待ちしております。

衣笠中央キリスト教会 牧師 三浦峰人



衣笠中央キリスト教会

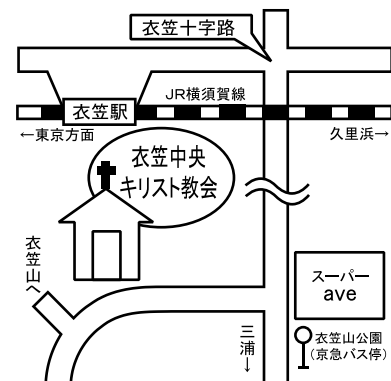
<http://www.kinugasa-ch.jp/>

〒238-0026

神奈川県横須賀市小矢部4-8-10

Tel/Fax 046-853-3160

牧師 三浦峰人



※コンサートの後には、ささやかながらお茶のご用意があります。

※お車でのご来場はご遠慮ください。徒歩が難しい方はお気軽にご相談ください。

毎週の日曜礼拝もお待ちしております!

2025年3月